

ひそ 日尊ノ倉山 (東蒲・上川村)

■環境：山地
 ■対象：健脚
 ■期間：6月上旬～
 10月下旬

福島県境にある標高1262mの山。多雪地帯のブナの森は長い時を超え、林床にはユキツバキの群落が山の斜面を抱え込んでいる。早春の山には野鳥をはじめツキノワグマやキツネなどのほ乳類、クマタカのディスプレイが見られ、秋には紅葉が見事。

〈初夏に見られる鳥たち〉

これまでの調査結果から、この山で確認された野鳥は全部で27科77種のぼっている。

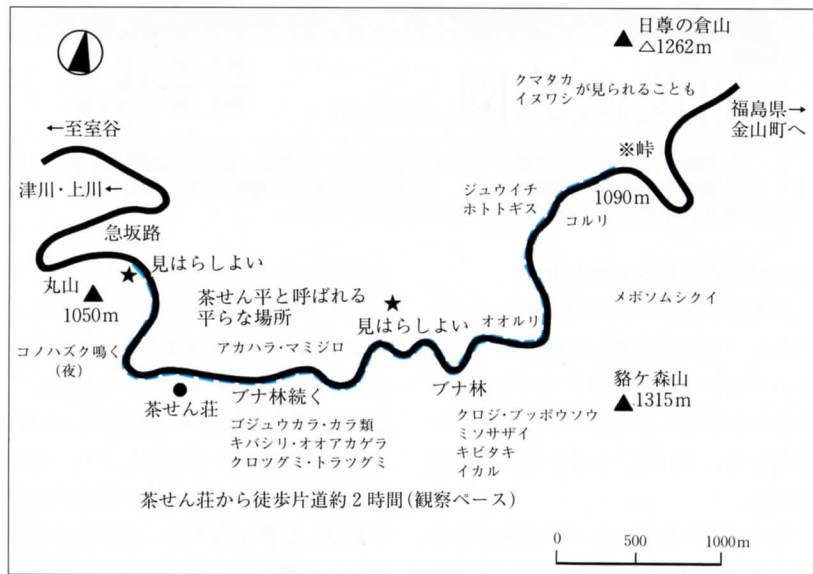
山へは林道を車で行くことになるが、例年除雪が終わるのが6月に入ってからが多い。従って、それ以前に入山するには最終地点の室谷集落からの徒歩となり、片道2時間もかかってしまう。地元役場に問い合わせの上、出掛けて行ってほしい。

例年4月下旬ころになるとブナ林の開葉がはじまり、山腹を黄緑色の新緑が彩ってくる。6月に入るとみずみずしい若葉一色となり、樹林ではオオル

リ、キビタキ、ゴジュウカラ、クロツグミなどが一齐に歌いだす。上川村管理の「茶せん荘」前に車を止め、林道を歩きながら観察を始める。沢筋からは流れるようなミソサザイの声も聞かれ、開けた溪谷ではオオルリがテリトリを宣言する。ブナ林からはクロツグミ、アカハラ、マジジロなどのツグミの仲間のさえずりが聞かれ、ヒガラやコガラ、シジュウカラなどは群れとなって枝葉にいる小昆虫を探すのに忙しそう。大きな樹幹を動き回るのはゴジュウカラで、時々キツツキ類のドラミングが響きわたる。笹などの交じった疎林からはクロジのさえずりが



初夏の日尊ノ倉山



聞かれ、標高の増したブナ林ではコロリが盛んにさえずっている。

〈晩秋から初冬にかけての鳥たち〉

10月下旬になると、山全体が美しく紅葉する。ナナカマドやメグスリノキ、ミヤマガズミなどが深紅に染まり、トチやタカノツメの黄葉も鮮やかだ。カラ類が混群となり、ブナ林を次々と移動して行く。穏やかな初冬の日、ツグミやカシラダカ、アトリの群れが一团となってブナ林に飛来する。中でもアトリの1000羽以上の群れを見る機会があり、林床で採餌していた群れが何かの物音で一斉に飛び立つ光景は実に壮観だ。11月上旬、ブナ林は落葉期を迎え静かなたたずまいとなる。カラ類

の混群にゴジュウカラやコゲラが見られるほかは森閑としている。やがて冬の季節風で山全体は白銀に包まれ、日尊ノ倉山は深い冬の眠りにつく。

(渡部 通)

メモ

交通 JR磐越西線津川駅から新交貸し切りバス、室谷行き乗車、終点下車、ここから現地まで徒歩2時間。マイカーがよい。

☐ 茶せん荘(上川村管理)前の駐車場を利用。トイレはない。

探鳥会 東蒲自然同好会とブナ林を守る会で共催する観察会が例年定期的に行われている。

問い合わせ先：渡部通

☎02549-2-5045